

## 2-2 各教員が有する業績

○教科及び教科の指導法に関する科目(教科に関する専門的事項)

科目名	担当教員	科目に対応する主な業績
(絵画)		
絵画基礎 日本画Ⅱ-I 油画Ⅱ-I 油画Ⅱ-II 絵画研究Ⅰ 絵画研究Ⅱ 絵画課題演習	知花均教授	2017 絵画研究における版の位置、思考過程について— 創作と授業— 教職課程年報vol.2 2018 現代美術演習—授業構築の試論と実践記録— 教職課程年報vol.3 2018 ドローイング実習の授業構築ため試論 教職課程 年報vol.3 2018 平版技法の原理と基礎実習の試論 教職課程年 報vol.3 2018 絵画表現の探求のための授業構築の試論と創作 —複数の平面の併置による平面表現— 教職課程年報
絵画基礎 日本画Ⅲ-I 油画Ⅲ-I 油画Ⅰ 油画Ⅲ-I デザイン(絵) 絵画研究Ⅰ 絵画研究Ⅱ 絵画課題演習	高崎賀朗教授	2017 混合技法(ミクストメディア)による絵画表現の可能 性の追求—絵画技法(油彩画・アクリル画)と版画技法(シ ルクスクリン)との混用を基に— 『教職課程年報vol.2 (1)』、p.60-73 2018 主題と表現内容について 『沖縄・台湾芸術大学交 流展2017』、p.10 2018 image, 1-B, 2017 『美術教育の森—東京藝術大学 美術教育研究室の作家たち—』、p.34
絵画基礎 日本画Ⅰ 日本画Ⅱ-I 日本画Ⅱ-II 日本画Ⅲ-I 油画Ⅰ 箔 絵画研究Ⅰ 絵画研究Ⅱ 絵画課題演習	香川亮教授	2016 時代の華—輪「私の木版画展」 aaca 一般社団 法人日本建築美術工芸協会会報74号誌、p.10 2017 箔がもたらす表現可能性について—日本画創作 ノート— 教職課程年報vol.2
絵画基礎 油絵Ⅲ-I 空間デザイン 染 絵画研究Ⅰ 絵画研究Ⅱ 絵画課題演習	阪田清子准教授	2017 素描教育についての—考察— 描画材、技法の 歴史的発展と教育実践—教職課程年報vol. 2 2014 制作ノート—或る山についてのメモランダム —las barcas別冊 p102-111 2021 「絵画」と「染」—横断する平面表現につ いて—教職課程年報vol. 7 2021 About Opposite Shores、『Cultural Typhoonin Europe』 p96-98 2022 「今を生きる人々と育む地域芸能の未来—『保存』 から『持続可能性』への転換を志向する場の形成と人材 育成」報告書、『沖縄県立芸術大学』 p215-221

<p>絵画基礎</p> <p>日本画 I</p> <p>日本画 II - I</p> <p>日本画 II - II</p> <p>日本画 III - I</p> <p>絵画研究 I</p> <p>絵画研究 II</p> <p>絵画課題演習</p>	<p>喜多祥泰准教授</p>	<p>2014 独立行政法人科学技術振興機構 研究成果展開事業 研究成果最適展開プログラムA-STEP探索タイプ採択事業『チョウザメ(浮袋)からのアイシングラス試作評価』『アイシングラス×岩絵の具の使用報告』(東京芸術大学美術学部発行、共著:33頁～46頁)</p> <p>2014 中越パルプ工業株式会社からの受託研究『竹紙の絵画用紙としての改質研究』『川内工場 絵画用竹紙(竹パルプ100%品)秤量150.6g/m<sup>2</sup>研究者試用報告』(東京芸術大学美術学部発行、共著:45頁～46頁)</p> <p>2020 「比較により考察する日本絵画の枠組み-現代日本絵画の変容とその可能性について-」美術教育研究no.25研究ノート(東京芸術大学美術学部発行、23～43頁)</p>
<p>絵画基礎</p> <p>日本画 I</p> <p>日本画 II - I</p> <p>日本画 II - II</p> <p>日本画 III - I</p> <p>デザイン (絵)</p> <p>装丁実習</p> <p>絵画研究 I</p> <p>絵画研究 II</p> <p>絵画課題演習</p>	<p>関谷理准教授</p>	<p>2017 グラフィカルな加工表現における視覚的な伝達効果と平面における活用 教職課程年報vol.2</p>
<p><b>(彫刻)</b></p>		
<p>彫刻 I - I</p> <p>彫刻 II - II</p> <p>彫刻研究 I</p> <p>彫刻研究 II</p> <p>彫刻課題演習</p>	<p>砂川泰彦教授</p>	<p>2017 『Exchange Exhibition Vol.9 女子美術大学×沖縄県立芸術大学』図録 P36-P37 Drawing Clover -素描 デッサン 下絵の豊かな表現-</p> <p>2018『Representation of Asian Sculpture vol.1 アジアの彫刻の現在』図録P12-P13 spring storm II -春の嵐-</p> <p>2019『Representation of Asian Sculpture vol.2 アジアの彫刻の現在』図録P20-P21 私と植物 -彫刻のモチーフとしての植物-</p> <p>2020 石彫制作を通しての基礎的造形力の育成について 教職課程年報Vol.6 P25-P38</p>
<p>彫刻 I - I</p> <p>彫刻 I - II</p> <p>彫刻 II - I</p> <p>工芸(彫)</p> <p>鑄造</p> <p>彫刻研究 I</p> <p>彫刻研究 II</p> <p>彫刻課題演習</p>	<p>松本隆教授</p>	<p>2013「ロブピア工房による施釉テラコッタ彫刻の制作技法研究——粘土の性質と焼成を中心に」『武蔵野美術大学研究紀要』43(共著)</p> <p>2013「〈リアーチェの戦士〉の制作技術—第二次報告」『亜細亜鑄造技術史学会研究発表資料集』7(共著)</p> <p>2014「〈リアーチェの戦士AB〉の再現実験用元原型制作(ビデオ発表)」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』8(共著)</p> <p>2014「〈リアーチェの戦士AB〉の内視鏡調査——ワックスモデル制作法における2体の差異」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』8(共著)</p> <p>2014「愛知県全昌寺蔵鉄製地藏菩薩立像に関する総合的考察」『武蔵野美術大学研究紀要』44(共著)</p> <p>2015「〈リアーチェの戦士A/B〉の色彩」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』9(共著)</p> <p>2016「リアーチェの戦士Aの右足における鑄掛け溶接の再現実験」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』10</p> <p>2017「古代ギリシアブロンズ像と現代ネパール金銅仏の鑄型の比較—成分分析と工程報告」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』11(単著)</p>

		<p>2018「調査報告 栃木県の鉄仏」『武蔵野美術大学研究紀要』48(共著)</p> <p>2018「リアーチェのブロンズ」における鑄掛け熔接技法の研究—再現実験とその検証—『FUSUS』10号(単著)</p> <p>2018「レッジョ・カラーブリア国立考古博物館蔵《リアーチェの戦士》の鑄型成形技法——再現実験を通じた検証と考察」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』12(単著)</p> <p>2019「現代ネパールの金銅仏鑄造技法」『武蔵野美術大学研究紀要』50(単著)</p> <p>2019「平安時代後期・鎌倉時代の多臂金銅仏の構造と鑄造法」『千葉大学教育学部研究紀要』第68巻(共著)</p> <p>2019「調査報告 ネパールの伝統的仏像鑄造」『工芸の展開—金属工芸鑄金における真土型鑄造法の研究—(単基盤研究B一般 2015-2018年度 研究成果報告書)』(単)</p> <p>2021「ロブピア工房による施釉テラコッタ彫刻の制作技法研究—オリジナル彫刻断片の総合的分析—」『武蔵野美術大学研究紀要』51(共著)</p> <p>2021「古代ギリシアにおける大型ブロンズ彫刻の鑄造技法研究—レッジョ・カラーブリア国立考古博物館蔵《リアーチェのブロンズ(戦士像A・B)》の制作工程の再構成—」『多摩美術大学研究紀要』第35号(単著)</p> <p>2021 “Ricostruzione sperimentale della forma dei Bronzi di Riace” in I Bronzi di Riace. Studi e Ricerche, a cura di Daniele Castrizio e Carmelo G. Malacrino, Reggio Calabria, Laruffa(共著)</p> <p>2021 “Saldatura per colata a ovali continui applicata ai Bronzi di Riace. Osservazioni” in I Bronzi di Riace. Studi e Ricerche, a cura di Daniele Castrizio e Carmelo G. Malacrino, Reggio Calabria, Laruffa(共著)</p> <p>2021 “Saldatura per colata a ovali continui applicata ai Bronzi di Riace. Fusione sperimentale” in I Bronzi di Riace. Studi e Ricerche, a cura di Daniele Castrizio e Carmelo G. Malacrino, Reggio Calabria, Laruffa(共著)</p> <p>2021 “L’ eventuale “fusione a parte” della gamba sinistra del Bronzo A di Riace” in I Bronzi di Riace. Studi e Ricerche, a cura di Daniele Castrizio e Carmelo G. Malacrino,</p> <p>2021 “Presunte procedure di costruzione dei Bronzi di Riace” in I Bronzi di Riace. Studi e Ricerche, a cura di Daniele Castrizio e Carmelo G. Malacrino, Reggio Calabria, Laruffa(共著)</p> <p>2021「金色と鏡—古代ギリシア彫刻からブランク—シヘ」『ぺらぺらの彫刻』武蔵野美術大学出版局(共著)</p> <p>2021「那古寺銅造千手観音立像脇手の内部構造解析—X線CTスキャンを利用して—」『アジア鑄造技術史学会研究発表概要集』14(共著)</p> <p>2022「千葉県館山市那古寺蔵 銅造千手観音菩薩立像(重要文化財)の造像法研究—調査記録と脇手構造の解析—」『武蔵野美術大学研究紀要』52(共著)</p>
<p>彫刻Ⅱ-Ⅱ</p> <p>構成</p> <p>鍛造</p> <p>彫刻研究Ⅰ</p> <p>彫刻研究Ⅱ</p> <p>彫刻課題演習</p>	<p>河原圭佑准教授</p>	<p>2018 彫刻における鍛造技法による金属素材の研究 教職課程年報vol.3</p> <p>2018 『Representation of Asian Sculpture vol.1 アジアの彫刻の現在』 図録P14-P15 mangosteen—鍛金を用いた彫刻表現—</p> <p>2019 『Representation of Asian Sculpture vol.2 アジアの彫刻の現在—台湾』 図録P22-P23 existence (非鉄金属による立体構成)</p> <p>2022 『Representation of Asian Sculpture vol.3 アジアの彫刻の現在—ベトナム』 図録P32-P35 残塊の先—柱—金属素材の鍛造による彫刻表現と質感について</p> <p>2019 『沖縄県立芸術大学紀要』第27号 (No.27,P65-P82) 研究ノート「タイ王国の伝統的造形素材の研究—北タイの仏閣におけるストック技法について—」</p> <p>2021 『沖縄県立芸術大学紀要』第29号 (No.29,P51-P63) 研究ノート「タイ王国の伝統的造形素材(ランナー漆喰)の研究—ベトナムにおける漆喰調査について—」</p>

		2021 令和3年度 全国オンライン研修会レポート [テーマ別実践研修] 中学校美術科・高等学校芸術科美術:実施担当 沖縄県立芸術大学 アルミホイルを使った彫刻—素材から構想する昆虫の形体— <a href="https://j-u-c-a.org/training_report/2022_chuko-">https://j-u-c-a.org/training_report/2022_chuko-</a>
彫刻 I-I	長尾恵那講師	2020 木彫における基礎的造形力と技法の習得—1年生を対象とした木彫実習実践記録—、『教職課程年報第6号』、39-49項
彫刻 I-II		2021 貞観期の“おかしみ”のある仏像たち—その起源と評価—、『Representation of Asian Sculpture vol.3 アジア彫刻の現在—ベトナム』、38-39項
彫刻 II-I		
彫刻研究 I		
彫刻研究 II		
彫刻課題演習		
<b>(芸術学)</b>		
西洋美術史 A	尾形希和子教授	2010-2012 イタリア・ロマネスクの動物誌(ペスティアリオ): 1 2獅子、3ノア方舟(一角獣と象)、4蛇、5狐『コレンテ』 京都イタリア会館web会報誌
西洋美術史特講		2013 『教会の怪物たち—ロマネスクの図像学』 350頁
西洋芸術批評史研究A		2015 西洋中世における象の寓意と象徴、沖縄県立芸術大学紀要第23号、1-20頁
西洋美術史特殊演習 I		2017 The Iconography of the Elephant in the Middle Ages: Some Observations on its Anatomy in Visual Art, 沖縄県立芸術大学30周年記念論文集
西洋美術史特殊演習 II		2017 脅威から予言まで(西洋の怪物表象) 徳田和夫編『東の妖怪・西のモンスター—想像力の文化比較—』
		2018 西洋中世の乳房 武田雅哉編『乳房の図像と記憶』
		2019 [書評]「カルロ・ギンズブルグ『政治的イコノグラフィ—について』(みすず書房、2019年)」図書新聞3427号(12月14日)、5頁
		2020 [事典]「グロテスク 「美術における「醜」の表現」美学会編『美学の事典』(丸善出版、2020年)、174-175頁
		2021 “Migration of Fantastic Creatures: The Stories of the Pygmaioi and Cranes”, in Fantastic Beasts in Antiquity: Looking for the monster, discovering the Human (eds. Sarah Béthume and Paolo Tomassini), Louvain-la-Neuve, Presses Universitaires de Louvain,
日本美術史	小林純子教授	2012 玉那覇正吉『竜 浮彫』—彫刻と絵画のはざままで—、『沖縄県立芸術大学紀要』第20号、1-12頁
日本美術史特講		2013 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵の山田真山下絵資料について、『山田真山が描いた世界』展図録、35-38頁
日本芸術批評史研究A		2014 『美術の日本近現代史 制度・言説・造型』、東京美術、402-433頁
日本美術史特殊演習 I		2018 山田真山と八重山、『沖縄県立芸術大学紀要』第26号、17-31頁
日本美術史特殊演習 II		2018 沖縄平和祈念像への道—山田真山の生涯と思想、『美術フォーラム21』第37号(特集:「地方美術史」って何?—三つのアプローチ)、醍醐書房、100~107頁
		2020 「民芸」の地方からの見直し 民芸と壺屋焼、『民族芸術学会誌 arts/』第36号、民族芸術学会、219~221頁
		2020 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵「大城志津子資料」について、『沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵「大城志津子資料」に関する調査研究報
		2022 首里城と琉球文化の復興 琉球王国文化遺産集積・再興事業巡回展「手わざ—琉球王国の文化」展についての考察、『民族芸術学会誌 arts/』第38号、民族芸術学会、172~174頁
東洋美術史	金恵信教授	2013 植民地期韓国のモダンガールと遊女、北原恵編著『アジアの女性身体はいかに描かれたか 視覚表象と戦争の記憶』

<p>東洋美術史特講</p> <p>東洋芸術批評史研究A</p> <p>東洋美術史特殊演習 I</p> <p>東洋美術史特殊演習 II</p>		<p>2013 韓国国立現代美術館の特壽宮プロジェクト展、『美連協ニュース』No.117</p> <p>2013 韓国近代期の美術、岩波書店辞典編集部編『岩波世界人名大辞典』</p> <p>2014 古都に浮かぶ現代美術の箱舟－韓国国立現代美術館、『美術手帖』2月分</p> <p>2014 故郷と異郷を行き来するブラッシュ・ストローケー－在独韓国アーティスト、ソン・ヒョンスクの絵画、『「移動」から見た女性美術家と視覚表象の研究』</p> <p>2015 表現をはじめる女性 ドイツにおける外国人労働者としてのアジア女性たちの調査研究(共著)、平成24～25年度 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費補助金 基盤研究(c)研究報告書</p> <p>2015 「朝鮮美術展覧会」にみる近代都市「京城」のおんなたち、『20世紀前半、二重空間の韓国に生きた日韓の美術科たり』</p> <p>2015 歴史に合わせる顔をもつ、沖縄タイムス2015年8月5日「記憶と肖像－沖縄と韓国・写真交流展」</p> <p>2016 「循環する世界 山城知佳子の芸術」書評、沖縄タイムス</p> <p>2017 韓国の西洋美術史－大学美術史学科と近年の研究、『西洋美術：作家・表象・研究－ジェンダー論の視座から』</p>
<p>一般芸術学</p> <p>美学</p> <p>美学特講</p> <p>比較美学研究A</p> <p>比較美学特殊演習 I</p> <p>比較美学特殊演習 II</p>	<p>喜屋武盛也教授</p>	<p>2012 森林美学の歴史と射程、西村清和(編著)『日常性の環境美学』、125-150</p> <p>2013 カッシーラー 哲学と「空間」の問題、21、77-83</p>
<p>西洋美術史B</p> <p>芸術学特講</p> <p>比較芸術学特殊研究A</p>	<p>土屋誠一准教授</p>	<p>2012 『現代アーティスト辞典 ケーンズ、ハーストから村上隆まで 1980年代以後のアート入門』(共著)</p> <p>2012 『実験場 1950s』(共著)</p> <p>2013 『現代アートの巨匠 先駆者たちのく作品・ことば・人生』(共著)</p> <p>2013 『ラッセンとは何だったのか？ 消費とアートを越えた「先」』(共著)</p> <p>2013 『質問する その1』(共著)</p> <p>2014 『現代アートの本当の学び方』(共著)</p> <p>2014 『現代アートの本当の見方』(共著)</p> <p>2015 『キュレーションの現在』(共著)</p> <p>2015 『『美少女戦士セーラームーン』研究論集 少女マンガの表象研究会研究報告書』(共著)</p> <p>2015 『日本美術全集 第19巻 拡張する戦後美術 戦後～一九九五』(共著)</p> <p>2015 『Life is like a Melody 麻枝准トリビュート』(共著)</p> <p>2016 『disPLACEMENT「場所」の置換 vol.3 佐々木友輔 New Film(TRAILer)』(共編著)</p> <p>2016 『TOM MAX ART WORKS 真喜志勉作品集』(共編著)</p> <p>2017『批評 前／後 継承と切断』ユミコチバアソシエイツ(共著)</p> <p>2017『現代アート10講』武蔵野美術大学出版局(共著)</p> <p>2017『絵画検討会2016』アートダイバー(共著)</p> <p>2017『辺境芸術最前線』秋田公立美術大学(共著)</p> <p>2018『芸術論の現在 沖縄からの発信 沖縄県立芸術大学開学30周年記念論集』沖縄県立芸術大学(共編著)</p> <p>2018『河口龍夫「一九六三年の銅版画より」』SNOW Contemporary(共著)</p> <p>2020『真喜志勉 TOM MAX Turbulence 1941-2015 Document／記録集』多摩美術大学美術館(共著)</p>

		<p>2020『美学の事典』丸善出版(共著)</p> <p>2022『ソートソツソアート×社会教育』 争奪!ノーアイハトと開発する社会教育プログラム』地域サポートわかさ(共著)</p> <p>2012 高松次郎と「影」の論争予備的スケッチ(ver.1.5)、『芸術批評誌「REAR」』27号</p> <p>2013 「時」のモニタージュ 東松照明論、『現代思想』2013年5月臨時増刊号</p> <p>2013 見出された「記録」の在処 「写真100年」再考、『日本写真の1968 1966-1974 沸騰する写真の群れ』[展覧会]</p> <p>2013 「ウォール・オブ・サウンド」としてのヴェルヴェット・アンダーグラウンド、『ユリイカ』2014年1月号</p> <p>2014 シンポジウム「日本写真の1968」全記録、『東京都写真美術館 紀要』13号(共著)</p> <p>2015 人間存在の純粋性に受けて 福沢一郎「日本人はどこからきたか」及び「日本文化のあけぼの」連作について、『福沢一郎展 沖縄の子どもたちへ贈られた34点 平成26年度那覇市文化芸術ふれあい事業』</p> <p>2016 一九四五以前の「沖縄美術」?、『ゲンロン3 脱戦後美術』</p> <p>2019「波多野泉の彫刻作品について 今日における「彫刻」の位置から」『上條文穂と波多野泉 現代彫刻展 令和元年度 沖縄県立博物館・美術館企画展』沖縄県立博物館</p> <p>2020「野村浩『Merandi』によせて」野村浩『Merandi』</p> <p>2020「山城知佳子《あなたをくぐり抜けて》に寄せて」(「山城知佳子「あなたをくぐり抜けて」記録映像上映会」(2020年2月7日～9日、INTERFACE-Shomei Tomatsu Lab.)会場にて配布されたテキスト)</p> <p>2020「疑似恋愛的五角形的美」『ツルネ 風舞高校弓道部』論『アニメクリティーク』10号</p> <p>2020「鴨志田一試論 『Just Because!』を中心に」『サブカル・ポップマガジン まぐま』PB11号</p> <p>2021「コロナウイルス体制以降における美術・再考(1-3)」『レビューとレポート』第16、17、25号</p> <p>2021「コロナ禍における「おももり」としての画集 岡崎乾二郎『TOPICA PICTUS とぴか ぴくたす』」『芸術批評誌「リア」』46号</p> <p>2021「『issues』、そして作家との共闘 2000年代 集団的活動の模索」『美術評論家連盟会報』21号</p>
<b>(デザイン)</b>		
<p>デザイン I</p> <p>デザイン II-Ⅱ</p> <p>デザイン III-Ⅱ</p> <p>視覚伝達デザイン研究 I A</p> <p>視覚伝達デザイン研究 I B</p> <p>視覚伝達デザイン研究 II A</p> <p>視覚伝達デザイン研究 II B</p> <p>デザイン課題演習</p>	仲本賢教授	<p>2012 写真集『メルカトル・パノラマ写真集』</p> <p>2017 肖像写真展における創作ノート—美術交流事業「ジュラ-沖縄」の実施の経緯と作品制作の報告—教職課</p> <p>2018 「人看板計画 創作ノート」写真を使用したパブリックアートの実践報告 大学紀要</p> <p>2021 祝嶺恭子染織展展評 沖縄タイムス寄稿</p>
<p>デザイン I</p> <p>デザイン II-Ⅱ</p> <p>デザイン III-Ⅱ</p> <p>視覚伝達デザイン研究 I A</p> <p>視覚伝達デザイン研究 I B</p> <p>視覚伝達デザイン研究 II A</p> <p>視覚伝達デザイン研究 II B</p> <p>デザイン課題演習</p>	赤嶺雅教授	<p>2017 視覚伝達機能を活用したビジュアル表現—実践的なデザイン展開のための基礎的理解— 教職課程年報 vol.2</p>
<p>素描(デ)</p> <p>色彩構成</p> <p>デザイン II-Ⅱ</p>	笹原浩造准教授	<p>2018 化粧品の意匠デザイン—パッケージデザインの機能構造とアートディレクションとの共創表現— 教職課程年報 vol.3</p>

<p>デザインⅢ-I 視覚伝達デザイン研究ⅠA 視覚伝達デザイン研究ⅠB 視覚伝達デザイン研究ⅡA 視覚伝達デザイン研究ⅡB デザイン課題演習</p>		
<p>立体造形(デ) 空間構成 デザインⅡ-I デザインⅡ-II デザインⅢ-I デザインⅢ-II 生活環境デザイン研究ⅠA 生活環境デザイン研究ⅠB 生活環境デザイン研究ⅡA 生活環境デザイン研究ⅡB デザイン課題演習</p>	<p>宮里武志准教授</p>	<p>2018 実践的空間構成の考察と沖縄の景観に配慮した環境デザイン-インテリアデザイン・建築デザイン・ランドスケープ- 教職課程年報vol.3</p>
<p>デザインⅡ-I デザインⅡ-II デザインⅢ-I デザインⅢ-II 視覚伝達デザイン研究ⅠA 視覚伝達デザイン研究ⅠB 視覚伝達デザイン研究ⅡA 視覚伝達デザイン研究ⅡB デザイン課題演習</p>	<p>又吉浩准教授</p>	<p>2018 映像表現による情報メディアデザインの表現と技法-アニメ動画・キャラクター・絵本・Web・ミックスメディアの展開- 教職課程年報vol.3</p>
<p>立体造形(デ) デザインⅡ-I デザインⅢ-I デザインⅢ-II 生活環境デザイン研究ⅠA 生活環境デザイン研究ⅠB 生活環境デザイン研究ⅡA 生活環境デザイン研究ⅡB デザイン課題演習</p>	<p>高田浩樹准教授</p>	<p>2020年 教育面コラム執筆「まるでテレビ番組？」琉球新報-教育面 P10 10月2日 2020年 教育面コラム執筆「芸大から大手企業へ」琉球新報-教育面 P12 10月30日 2020年 教育面コラム執筆「作品公募にチャレンジ」琉球新報-教育面 P12 11月27日 2020年 教育面コラム執筆「デジタル化するデザイン」琉球新報-教育面 P12 12月25日 2021年 教育面コラム執筆「ミラノサローネ日本代表」琉球新報-教育面 P10 1月29日 2021年 教育面コラム執筆「芸大へチャレンジ」琉球新報-教育面 P16 2月26日 2021 沖縄県立芸術大学紀要「竹素材の研究と茶筌椅子の制作」No. 29 P95-109</p>
<p>デザインⅡ-I デザインⅡ-II デザインⅢ-I 生活環境デザイン研究ⅠA 生活環境デザイン研究ⅠB 生活環境デザイン研究ⅡA 生活環境デザイン研究ⅡB デザイン課題演習</p>	<p>赤塚美穂子講師</p>	<p>2021 インテリア空間トレンドと照明デザインの変遷-マテリアル及びフォルム・構成に見るトレンド反映要素-沖縄県立芸術大学紀要No.29 83-93頁</p>
<p>(工芸・染織)</p>		

版画 工芸Ⅱ 染Ⅰ 染Ⅱ 染研究Ⅰ 染研究Ⅱ	名護朝和教授	2012 沖縄の伝統色に関する調査研究—沖縄の色とは、その産業化を目指して—、沖縄県立芸術大学紀要第20号、P.19-22 2013 テーマ「紅型染」ほか、沖縄染織研究会通信 Vol.62 2014 村山佳津典染織展工芸あるべき姿問う、沖縄タイムス 2018 沖縄の伝統的工芸技法に関する制作研究—藍型(エーガタ)による染色表現—教職課程年報vol.3 2021 田島征彦 型染と絵本原画展、沖縄タイムス 2022 金武町屋嘉の芸能衣装の再現制作から考察する古紅型技法、沖縄県立芸術大学芸術文化研究所紀要第
デザインと素材 工芸Ⅱ 織Ⅰ 織Ⅱ 織研究Ⅰ 織研究Ⅱ	花城美弥子教授	2016 着尺制作から着物への立体的表現の実践に向けて—織・着物ファッションショー「縞・着物の粋」—教職課程年報vol.1 2017 織物設計・デザインに必要な基礎的情報のデータ化—創作テキストスタイルデザインの展開に向けての実践資料—教職課程年報vol.2 2018 羊毛の繊維素材としての特質を用いたデザイン表現研究—帽子のデザイン・作品制作に向けての実践資料— 2022 「なは一と」にみる染織 沖縄タイムス 2022年3月10日
織Ⅰ 織Ⅱ 織研究Ⅰ 織研究Ⅱ	久保田寛子准教授	2016 「日本への紘の伝播経路と歴史、それぞれの位置づけについて」—沖縄の紘と日本の紘の比較— 広島市立大学 芸術学研究科 修士論文 2018 「経紘ずらし技法の作品と、その制作での藍及び染料について」天然の色:天然染料顔料会議報告p.10-13 2021 「経技法による織とその意味について」—『つながる糸ひろがる布 2020—2021』p.5
工芸Ⅰ 工芸Ⅱ 染Ⅰ 染Ⅱ 染研究Ⅰ 染研究Ⅱ	宇良京子講師	2022 金武町屋嘉の芸能衣装の再現制作から考察する古紅型技法 沖縄県立芸術大学芸術文化研究所紀要第34号
<b>(工芸・陶漆芸)</b>		
立体造形(工) 工芸Ⅰ 工芸Ⅱ 陶芸Ⅰ 陶芸Ⅱ 陶磁器研究Ⅰ 陶磁器研究Ⅱ	山田聡教授	2015 展評「現代沖縄陶芸の歩み」展、沖縄タイムス 2016 展評「キムホノ展」、琉球新報 2017 原材料研究 —伝統的なシルグスイのものと製法検証—(共著) 教職課程年報vol.2 2019 展評「国吉清尚展を見て」 琉球新報
デザイン(工) 立体構成 工芸Ⅱ 漆芸Ⅰ	當眞茂教授	2016 「琉球漆芸の歴史と技法およびデザイン」琉球漆芸の加飾「螺鈿・堆錦・沈金」—ワークショップ「漆工品の保存と修復」2016 東京文化財研究所 2017 18~19世紀の琉球漆器復元をとおしての、これからの漆器デザインへの展望—撮影機器やコンピュータを使用した調査・研究及び復元制作—教職課程年報 2018 創作理念 研究概要—沖縄・台湾芸術大学 交 2018 琉球漆芸の過去、現在、未来—「三国一漆」展図録 韓中日協力事務局



漆芸Ⅱ 漆工研究Ⅰ 漆工研究Ⅱ		2021 琉球漆器の沈金技法に関する運刀法の研究-15・16世紀を中心に- 第43号漆工史 漆工史学会
工芸Ⅱ 陶芸Ⅰ 陶芸Ⅱ 陶磁器研究Ⅰ 陶磁器研究Ⅱ	島袋克史講師	2013 多様な陶器生産システム構築事業(共著) 陶器における原土調査から陶器に適した粘土配合と調整。
工芸Ⅰ  漆芸Ⅰ 漆芸Ⅱ 漆工研究Ⅰ 漆工研究Ⅱ	松崎森平講師	2012年3月「平等院、瑠璃壺の截金文様復元について」共著 鳳翔学叢第8輯(宗教法人平等院) P182~188  2013年3月「平成24年度栽培保育管理研修報告」単著 日本文化財漆協会会報「漆文化」第124号 P1,2 2016年7月「平成28年度栽培保育管理研修報告」単著 日本文化財漆協会会報「漆文化」第131号 P6~8 2017年6月「備中漆」岡山県新見市、真庭市の植栽地 単著 日本文化財漆協会会報「漆文化」第132号 P14~17

科目名	担当教員	科目に対応する主な業績
(音楽表現第1)		
声楽実技Ⅰ 声楽実技Ⅱ 声楽実技Ⅲ 声楽実技Ⅳ 合唱Ⅰ 合唱Ⅱ 合唱Ⅲ 合唱Ⅳ 副科声楽Ⅰ(表) 副科声楽Ⅱ(表) 副科合唱Ⅰ 副科合唱Ⅱ 声楽研究Ⅰ 声楽研究Ⅱ オペラ総合実習A-Ⅰ オペラ総合実習A-Ⅱ 声楽特殊研究A 声楽特殊研究B 協奏曲研究	片桐仁美教授	2017 声楽における言語の相違について—イタリア語、ドイツ語、フランス語歌唱を中心に— 教職課程年報vol.2
声楽実技Ⅰ 声楽実技Ⅱ 声楽実技Ⅲ 声楽実技Ⅳ 合唱Ⅰ 合唱Ⅱ 合唱Ⅲ 合唱Ⅳ 副科声楽Ⅰ(表) 副科声楽Ⅱ(表) 副科合唱Ⅰ 副科合唱Ⅱ 声楽研究Ⅰ 声楽研究Ⅱ オペラ総合実習A-Ⅰ オペラ総合実習A-Ⅱ 声楽特殊研究A 声楽特殊研究B 協奏曲研究	五郎部俊朗教授	2016 オーケストラ(器楽合奏)・合唱及び独唱指導についての考察—モーツァルトレクイエムによる試み—(共著) 教職課程年報vol.1 2017 初歩的な声楽学習者への、イタリア歌曲指導についての考察—イタリア語の発音指導に着目して— 教職課程年報vol.2
ソルフェージュⅠ(表) ソルフェージュⅡ(表) ソルフェージュⅢ(表) ソルフェージュⅣ(表) 和声Ⅰ(表) 和声Ⅱ(表) 和声Ⅲ(表) 和声Ⅳ(表) 作曲実技Ⅰ 作曲実技Ⅱ 作曲実技Ⅲ	塚本一実教授	2021 『180の旋律聴音問題集』(共著)全体(58ページ)の1/2 (株)東京ハッスルコピー 2021 音楽の基礎『はじめての和声学【改訂版】』～演奏家及び東京藝大薬理科受験のために～ (株)音楽舎 2013 『シルバーエイジのための“カンタン”映画音楽～JCAAコンサート「ピアノ悠々」～Vol.2』/『太陽がいっぱい』P.32～P.36 (株)学研パブリッシング 2013 『歌のとびら4 小学生のためのオリジナル教材集』/『森のペーカリー』P.29～31 (株)教育芸術社 2014 『音楽教育における「創作の原点」』～作曲家の視点からみた小学校音楽科教材の導入の在り方について～ 常葉大学短期大学部紀要第45号P.239～252

<p>作曲実技Ⅳ 作曲演習Ⅰ 作曲演習Ⅱ 作曲演習Ⅲ 作曲演習Ⅳ 楽曲分析Ⅰ(表) 楽曲分析Ⅱ(表) 作曲実習Ⅰ 作曲実習Ⅱ 作曲演習Ⅰ 楽曲分析研究 楽曲構造特殊研究</p>		<p>2016『左手のための小品集～母に捧げる子守唄～』/《母に捧げる子守唄》P.9～11 (株)音楽之友社 2017『中学校歌唱共通教材「夏の思い出」の分析』～作曲家の視点から～ 2018『新しい子どもの歌2018』/《虹色の気球にのって》P.15～17 (株)ハンナ 2019『新しい子どもの歌2019』/《千羽鶴》P.26～27 (株)ハンナ 2020『新しい子どもの歌2020』/《9がつのおくりもの♪》P.44～45 (株)ハンナ 2021『新しい子どもの歌2018』/《ぼくはぞうだぞう》P.156～160 (株)ハンナ 2021『新しい子どもの歌2018』/《ともだちになろうよ!》P.106～108 (株)ハンナ</p>
<p>声楽実技Ⅰ 声楽実技Ⅱ 声楽実技Ⅲ 声楽実技Ⅳ 合唱Ⅰ 合唱Ⅱ 合唱Ⅲ 合唱Ⅳ 副科声楽Ⅰ(表) 副科声楽Ⅱ(表) 副科合唱Ⅰ 副科合唱Ⅱ 声楽研究Ⅰ 声楽研究Ⅱ オペラ総合実習A-Ⅰ オペラ総合実習A-Ⅱ 声楽特殊研究A 声楽特殊研究B 協奏曲研究</p>	<p>山内昌也准教授</p>	<p>2016 オーケストラ(器楽合奏)・合唱及び独唱指導についての考察－モーツァルトレクイエムによる試み－(共著) 教職課程年報vol.1</p>
<p>ソルフェージュⅠ(表) ソルフェージュⅡ(表) ソルフェージュⅢ(表) ソルフェージュⅣ(表) 和声Ⅰ(表) 和声Ⅱ(表) 和声Ⅲ(表) 和声Ⅳ(表) 作曲実技Ⅰ 作曲実技Ⅱ 作曲実技Ⅲ 作曲実技Ⅳ 作曲演習Ⅰ 作曲演習Ⅱ 作曲演習Ⅲ 作曲演習Ⅳ 楽曲分析Ⅰ(表) 楽曲分析Ⅱ(表) 作曲実習Ⅰ 作曲実習Ⅱ 作曲演習Ⅰ 作曲演習Ⅱ 楽曲分析研究 楽曲構造特殊研究</p>	<p>土井智恵子准教授</p>	<p>2019 担当授業科目「楽曲分析」におけるフォルマシオン・ミュージカルの試み－オリヴィエ・メシアンを中心に－ 教職課程年報vol.4</p>

<p>声楽実技Ⅰ  声楽実技Ⅱ  声楽実技Ⅲ  声楽実技Ⅳ  合唱Ⅰ  合唱Ⅱ  合唱Ⅲ  合唱Ⅳ  副科声楽Ⅰ(表)  副科声楽Ⅱ(表)  副科合唱Ⅰ  副科合唱Ⅱ  声楽研究Ⅰ  声楽研究Ⅱ  オペラ総合実習A-Ⅰ  オペラ総合実習A-Ⅱ  声楽特殊研究A   声楽特殊研究B  協奏曲研究</p>	<p>松田奈緒美准教授</p>	<p>2017 創作歌曲「鐘」―組踊「執心鐘入」歌舞伎「娘道成寺」によせて―  教職課程年報vol.2</p>
<p>(音楽表現・第2)</p>		
<p>管打楽実技Ⅰ  管打楽実技Ⅱ  管打楽実技Ⅲ  管打楽実技Ⅳ  管打合奏Ⅰ  管打合奏Ⅱ  管打合奏Ⅲ  管打合奏Ⅳ  器楽合奏Ⅰ  器楽合奏Ⅱ  指揮法(表)  室内楽実習Ⅰ  管弦打楽研究Ⅰ  管弦打楽研究Ⅱ  オーケストラ研究Ⅰ  オーケストラ研究Ⅱ  協奏曲研究</p>	<p>阿部雅人教授</p>	<p>2016 沖縄県における器楽合奏指導と管打楽実技指導の実践的課題  ―2016年度吹奏楽課題曲講習会、実技講習会から―(共著)  教職課程年報vol.1  2017 器楽合奏のための実技研究法および指導法について―2017年  度吹奏楽課題曲講習会における指導を題材にして―(共著) 教職課  2017 室内楽から得られる実技指導への応用についての一考察 ―木  管五重奏の実践から―(共著) 教職課程年報vol.2</p>
<p>副科ピアノⅠ(表)  副科ピアノⅡ(表)  副科ピアノⅢ(表)  副科ピアノⅣ(表)  ピアノ実技Ⅰ  ピアノ実技Ⅱ  ピアノ実技Ⅲ  ピアノ実技Ⅳ  ピアノ重奏Ⅰ  ピアノ重奏Ⅱ  伴奏法Ⅰ  伴奏法Ⅱ  伴奏法Ⅲ  伴奏法Ⅳ  ピアノ研究Ⅰ  ピアノ研究Ⅱ  声楽曲伴奏法  室内楽実習Ⅰ  協奏曲研究</p>	<p>小杉裕一教授</p>	<p>2019 大学におけるピアノ協奏曲作品の学習意義 教職課程年報vol.4</p>
<p>弦楽実技Ⅰ  弦楽実技Ⅱ</p>	<p>林裕教授</p>	<p>2018年11月16日 チェロが歌い上げるオペラ・ファンタジーの世界(単  著)Naxos Japan,Inc.</p>

弦楽実技Ⅲ 弦楽実技Ⅳ 弦楽合奏Ⅰ 弦楽合奏Ⅱ 弦楽合奏Ⅲ 弦楽合奏Ⅳ 室内楽実習Ⅰ 管弦打楽研究Ⅰ 管弦打楽研究Ⅱ オーケストラ研究Ⅰ オーケストラ研究Ⅱ 協奏曲研究		
弦楽実技Ⅰ  弦楽実技Ⅱ 弦楽実技Ⅲ  弦楽実技Ⅳ  弦楽合奏Ⅰ 弦楽合奏Ⅱ 弦楽合奏Ⅲ 弦楽合奏Ⅳ 室内楽実習Ⅰ 管弦打楽研究Ⅰ 管弦打楽研究Ⅱ オーケストラ研究Ⅰ オーケストラ研究Ⅱ 協奏曲研究	岡田光樹教授	2016 オーケストラ(器楽合奏)・合唱及び独唱指導についての考察－モーツァルトレクイエムによる試み－(共著) 教職課程年報vol.1  2017『ヴァイオリンと三線のための『ヴィヴァルディ:「四季」より<冬>』(単著) ファウエム・ミュージック・コーポレーション 2017『ヴァイオリンと三線のための「聖しこの夜」』(単著) ファウエム・ミュージック・コーポレーション 2017 器楽合奏における指導法の研究－弦楽合奏を例に－(共著) 教職課程年報vol.2
管打楽実技Ⅰ  管打楽実技Ⅱ  管打楽実技Ⅲ  管打楽実技Ⅳ  管打合奏Ⅰ 管打合奏Ⅱ 管打合奏Ⅲ 管打合奏Ⅳ 器楽合奏Ⅰ 器楽合奏Ⅱ 室内楽実習Ⅰ 管弦打楽研究Ⅰ 管弦打楽研究Ⅱ オーケストラ研究Ⅰ オーケストラ研究Ⅱ 協奏曲研究	澤村(井野邊)康恵教授	2016 オーケストラ(器楽合奏)・合唱及び独唱指導についての考察－モーツァルトレクイエムによる試み－(共著) 教職課程年報vol.1 2016 沖縄県における器楽合奏指導と管打楽実技指導の実践的課題－2016年度吹奏楽課題曲講習会、実技講習会から－(共著) 教職課程年報vol.1 2017 器楽合奏のための実技研究法および指導法について－2017年度吹奏楽課題曲講習会における指導を題材にして－(共著) 教職課程年報vol.1 2017 管打楽における実技指導について －平成29年度沖縄県吹奏楽連盟主催実技講習会から－ 教職課程年報vol.2 2017 室内楽から得られる実技指導への応用についての一考察－木管五重奏の実践から－(共著) 教職課程年報vol.2
管打楽実技Ⅰ  管打楽実技Ⅱ  管打楽実技Ⅲ 管打楽実技Ⅳ 管打合奏Ⅰ 管打合奏Ⅱ 管打合奏Ⅲ	倉橋健教授	2016 オーケストラ(器楽合奏)・合唱及び独唱指導についての考察－モーツァルトレクイエムによる試み－(共著) 教職課程年報vol.1 2016 沖縄県における器楽合奏指導と管打楽実技指導の実践的課題－2016年度吹奏楽課題曲講習会、実技講習会から－(共著) 教職課程年報vol.1 2017 器楽合奏のための実技研究法および指導法について－2017年度吹奏楽課題曲講習会における指導を題材にして－(共著) 教職課程年報vol.1

<p>管打合奏Ⅳ 器楽合奏Ⅰ 器楽合奏Ⅱ 指揮法(表) 室内楽実習Ⅰ 管弦打楽研究Ⅰ 管弦打楽研究Ⅱ オーケストラ研究Ⅰ オーケストラ研究Ⅱ 協奏曲研究</p>		
<p>副科ピアノⅠ(表) 副科ピアノⅡ(表) 副科ピアノⅢ(表) 副科ピアノⅣ(表) ピアノ実技Ⅰ ピアノ実技Ⅱ ピアノ実技Ⅲ ピアノ実技Ⅳ ピアノ重奏Ⅰ ピアノ重奏Ⅱ 伴奏法Ⅰ 伴奏法Ⅱ 伴奏法Ⅲ 伴奏法Ⅳ ピアノ研究Ⅰ ピアノ研究Ⅱ ピアノ特殊研究 声楽曲伴奏法 室内楽実習Ⅰ 協奏曲研究</p>	<p>小沢(小澤)麻由子准教授</p>	<p>2016 学生による演奏機会の創造と実践―「ピアノ演奏実習」の実施報告と成果の検証― 教職課程年報vol.1 2017 ドビュッシー 前奏曲集第1巻 演奏の手引きとその指導法―デュラン社新版への考察①― 教職課程年報vol.2 2018 ドビュッシー 前奏曲集Ⅰ CD「小沢麻由子プレイズドビュッシー」 曲目解説(WWCC-7875 LIVENOTES) P4~7 2021ドビュッシー 練習曲集・前奏曲集Ⅱ CD「小沢麻由子プレイズドビュッシーⅡ」曲目解説(WWCC-7943-4 LIVENOTES) P2~6 2022 曲目解説 沖縄県立芸術大学奏楽堂演奏会「ドビュッシーの室内楽」JP3~4</p>
<p>管打楽実技Ⅰ 管打楽実技Ⅱ 管打楽実技Ⅲ 管打楽実技Ⅳ 管打合奏Ⅰ 管打合奏Ⅱ 管打合奏Ⅲ 管打合奏Ⅳ 器楽合奏Ⅰ 器楽合奏Ⅱ 室内楽実習Ⅰ 管弦打楽研究Ⅰ 管弦打楽研究Ⅱ オーケストラ研究Ⅰ オーケストラ研究Ⅱ 協奏曲研究</p>	<p>屋比久(米須)理夏准教授</p>	<p>2016 オーケストラ(器楽合奏)・合唱及び独唱指導についての考察―モーツァルトレクイエムによる試み―(共著) 教職課程年報vol.1 2016 沖縄県における器楽合奏指導と管打楽実技指導の実践的課題―2016年度吹奏楽課題曲講習会、実技講習会から―(共著) 教職課程年報vol.1 2016 打楽器基礎練習プログラムの開発実践レポート その1 ―小学校における指導実践―教職課程年報vol.1 2017 器楽合奏のための実技研究法および指導法について―2017年度吹奏楽課題曲講習会における指導を題材にして―(共著) 教職課程年報vol.2 2017 器楽(打楽器)指導法についての考察―吹奏楽部における打楽器基礎練習の実態調査を通して― 教職課程年報vol.2 2019 打楽器を用いた活動支援の可能性の検証―不登校の児童生徒を対象にした自立援助センターにおける実践を通して― 教職課程年報vol.4</p>
<p>ソルフェージュⅠ(表) ソルフェージュⅡ(表) ソルフェージュⅢ(表) ソルフェージュⅣ(表) 副科ピアノⅠ(表) 副科ピアノⅡ(表)</p>	<p>大城英明准教授</p>	<p>2017 研究ノート:ハノン全調スケールの簡略化表記について―ピアノ初心者のスケール学習の軽減化のために― 教職課程年報 Vol. 2 (2) 2021 研究ノート:演奏における自作編曲版アンサンブルの追究―サン＝サーンス作曲《死の舞踏》を事例として― 教職課程年報 Vol. 7</p>

副科ピアノⅢ(表) 副科ピアノⅣ(表) ピアノ実技Ⅰ ピアノ実技Ⅱ ピアノ実技Ⅲ ピアノ実技Ⅳ ピアノ重奏Ⅰ ピアノ重奏Ⅱ 伴奏法Ⅰ 伴奏法Ⅱ 伴奏法Ⅲ 伴奏法Ⅳ ピアノ研究Ⅰ ピアノ研究Ⅱ 声楽曲伴奏法 室内楽実習Ⅰ 協奏曲研究		
(琉球芸能)		
琉球古典音楽実技Ⅰ 琉球古典音楽実技Ⅱ 関連歌三線実技Ⅰ 関連歌三線実技Ⅱ 地謡実技Ⅰ 地謡実技Ⅱ 琉球古典音楽研究Ⅰ 琉球古典音楽研究Ⅱ	仲嶺伸吾教授	2017 琉球古典音楽安富祖流の伝承方法と今後の課題—作田節に様式譜を付ける— 教職課程年報vol.2 2021組踊の略式上演方法についての考察—琉球古典音楽奏者の新たな略式上演方法の可能性—教職課程年報vol.7
琉球古典音楽実技Ⅰ 琉球古典音楽実技Ⅱ 関連歌三線実技Ⅰ 関連歌三線実技Ⅱ 地謡実技Ⅰ 地謡実技Ⅱ 琉球古典音楽研究Ⅰ 琉球古典音楽研究Ⅱ	山内昌也教授	2016 琉球古典音楽と四季 教職課程年報vol.1 2017 琉球古典音楽「かぎやで風節」の表現法と分析—「演奏の手引き工四」と「声楽練習用楽譜」の構築— 教職課程年報vol.2.2 2021 中学校音楽教科書執筆「Music Study」音楽ワーク2・3上 沖縄県資料 株式会社 学友館 2022 CD「溪の響Ⅲ」琉球古典舞踊～女踊～CDブック解説 一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室 2021 写真集 執筆「琉球の美」—首里城で感じるホンモノのモノ— 一般社団法人琉球伝統芸能デザイン研究室 2021「おきげい出前コンサートシリーズ」備忘録—音楽学部創設25-30周年記念事業「OMPRO」沖縄県庁・首里城公演コンサート— 沖縄県立芸術大学紀要No29 2020 「芸術」の必要性 沖縄声楽発声研究会会報第一号
琉球舞踊組踊研究Ⅰ 琉球舞踊組踊研究Ⅱ	比嘉いずみ准教授	2022 「海外でのワークショップによる琉球舞踊教習の実践と課題」『沖縄芸術の化学』第34号
琉球舞踊組踊研究Ⅰ 琉球舞踊組踊研究Ⅱ	阿嘉修准教授	2021 組踊『唱本』考案研究
琉球古典音楽実技Ⅰ 琉球古典音楽実技Ⅱ 関連歌三線実技Ⅰ 関連歌三線実技Ⅱ 地謡実技Ⅰ 地謡実技Ⅱ 琉球古典音楽研究Ⅰ 琉球古典音楽研究Ⅱ	新垣俊道准教授	2015 組踊「二童敵討」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2015 組踊「孝行の巻」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2016 組踊「花売の縁」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2016 「女性音楽家の会」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2017 「琉球舞踊特選会」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2018 「琉球舞踊鑑賞会 夏模様 ～七夕」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2018 「創作舞踊」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2019 寄稿「野村流保存会工四の変遷と奏法の変化『十七八節』の「撥捌き」記号を中心に」 沖縄芸能協会創立50周年記念誌 2020 「琉球舞踊公演 春夏秋冬を舞う」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2020 「琉球舞踊公演 琉球舞踊鑑賞会」解説 国立劇場おきなわステージガイド 2022 組踊「二童敵討」解説 国立劇場おきなわステージガイド
琉球舞踊組踊研究Ⅰ 琉球舞踊組踊研究Ⅱ	嘉数道彦准教授	2014 〔国立劇場おきなわ開場10周年を迎えて〕 月刊文化財 2014 〔新作組踊「間得大君誕生」演出のことば〕 板東玉三郎特別舞踊公演パンフレット

い

		<p>2015〔はじめての琉球舞踊 解説〕国立劇場おきなわステージガイド</p> <p>2015〔雑踊名作選 解説〕国立劇場おきなわステージガイド</p> <p>2016〔新作組踊「初桜」作・演出のことば〕国立劇場おきなわステージガイド</p> <p>2017〔古典女七踊りを舞う 解説〕安座間本流大北満之会新垣満子第二回独演会パンフレット</p> <p>2019〔組踊300年 国立劇場おきなわと組踊〕月刊文化財</p> <p>2020〔新作組踊『春時雨』作・演出のことば〕国立劇場おきなわステージガイド</p> <p>2021〔美らなる島の歌と踊り 演目解説〕世田谷文化財団シリーズ和・華・調 琉球芸能特別公演パンフレット</p> <p>2022〔エッセイ「譲らない最後の一割」〕大城立裕追悼論集</p>
(音楽文化)		
民族音楽学A	小西潤子教授	2022a「北陸から沖縄へのモノの流れを手がかりとした民俗芸能流転の可能性—『目連尊者地獄めぐり系チヨンガレ』と『念仏歌系エイサー』の詞章比較による—」後藤明監修、大西秀之編『モノ・コト・コトバの人類史—後藤明先生退職記念論集—』雄山閣出版, pp. 181-200.
民族音楽学B		2022b「琉球古典女踊り『柳』にみる日琉の往来と中国からの影響—『天川』との歌詞、拍節構造、下肢の動作の比較分析による—」『ムー
演習 I		2021a「応用音楽学的実践としての山口修写真コレクションのデータベース化に向けて—民族音楽学の成立概略史と1970年代沖縄・奄美の楽器の写真を手がかりに—」『国立民族学博物館研究報告』46-
演習 II		2021b「フィールドで聴く小笠原の音楽」東京都立大学小笠原研究委員会編『世界自然遺産小笠原諸島—自然と歴史文化』, 朝倉書店,
原典講読		2020a「『小笠原盆踊り』の成立と発展」『小笠原研究年報』43:51-70.
民族音楽学研究		2020b「From Local Media to Vending Machines: Innovative ways of sustaining Okinawa's shimakutuba and island culture」, Shima 14-1: 231-251.
課題演習		2020c「Tracing Ogasawaran Songs, Dances and Musical Instruments」, Global Environmental Research 23-1 & 2:69-72.
		2020d「沖縄県竹富島仲筋集落の余興芸能『パッサイロン』に関する一考察—沖縄・小笠原の伝わったマイクロネシアの行進踊りの系譜とその音楽表現を中心に—」『南島文化』v42, p.83-102.
		2020e「チヨンダラーとエイサーの歴史再考のための除雪—北陸から琉球への人とモノの流れを手がかりに—」『ムーサ』21: 39-52.
		2019a「パラオの歌謡ジャンル・デレベエシールと《アルモノソング》の集合的記憶」『パラオ・日本外交関係樹立25周年記念誌—平和と友好を祝して』駐日パラオ共和国大使館, pp.52
	2019b「小笠原に伝播した歌—時間と空間を超えたマイクロネシアの混濁文化」石森大知・丹羽典生編著『太平洋の歴史を知るための60章』明石書店, pp. 307-311,	
	2019c「Champru as a cultural strategy of sustainability: focusing on the Okinawanperforming arts in Nanyo」, Asian Musicology 2019 v. 29, pp. 35-62.	
	2019d「芸能の伝播と創造的伝承をめぐって—南洋群島と小笠原」長嶋俊介編著『日本ネシア論』別巻環25, 藤原書店, pp.134-136.	
	2019e「沖縄と世界をリンクする芸能と余興の文化」長嶋俊介編著『日本ネシア論』別巻環25, 藤原書店, pp.102-105.	
	2018a「沖縄に伝わったマイクロネシアの行進踊りの様式比較」『開学30周年記念論集』編集委員会編『沖縄県立芸術大学開学30周年記念論集 芸術論の現在 沖縄からの発信』, pp.51-72.	
	2018b「《ていんさぐぬ花》のアレンジと沖縄らしさに関する調査—音楽科における「郷土の音楽」指導のために—」沖縄県立芸術大学『教職課程年報』vol. 3, 195-207.	
	2017a「A Fleeting Aquapelago: A Theoretical Consideration of The Japanese Presence in The Torres Strait 1880s-1940s」, South Pacific Studies 37-2, 71-86.	
	2017b「松岡静雄が公刊したマイクロネシア民謡と手稿『南島』の比較分析—沖縄県出身の南洋移民が耳にした歌の記録をめぐって—」沖縄県立芸術大学音楽学研究誌『ムーサ』18, 31-50.	
	2016「消えたサウンドスケープ—戦前サイパン・ガラパン街で聴かれた音と沖縄県出身者の軌跡—」沖縄県立芸術大学音楽学研究誌『ムーサ』17, 1-19.	
	2015a「サヨンの鐘」の記憶と喪失」藤原書店編集部『「アジア」を考える』, pp.170-171, 藤原書店.	
	2015b「戦前沖縄からの旧南洋群島移民の音楽芸能行動と三線」沖縄県立芸術大学音楽学研究誌『ムーサ』16, 27-42.	
	2015c「歌と踊り—伝統の創造と継承」印東道子編著『マイクロネシアを知るための58章』pp.133-136, 明石書店.	
	2015d「Inaka mura (田舎村)の音風景—パラオ現代歌謡に見る音と心」『日本サウンドスケープ協会2014年度春季研究発表会論文集』, pp. 2014「パラオ日本語歌謡の歌詞とメロディの分析—『失恋の恨みごと』の表現をめぐって—」沖縄県立芸術大学音楽学研究誌『ムーサ』15, 2013『「サヨンの鐘」のサウンドスケープ—リヨヘン社タイヤル族の音の記憶とアイデンティティ—」静岡大学教育学部『静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇)』63, pp.207-223.	



<p>副科実技Ⅰ(和楽器)</p> <p>副科実技Ⅱ(和楽器)</p> <p>日本音楽史A</p> <p>日本音楽史B</p> <p>日本・東洋音楽史</p> <p>演習Ⅰ</p> <p>演習Ⅱ</p> <p>原典講読</p> <p>日本音楽史研究</p> <p>課題演習</p>	<p>高瀬澄子教授</p>	<p>2012「律呂図板をめぐる」(単著)『企画展示 楽器は語る —紀州藩主徳川治宝と君子の楽—』国立歴史民俗博物館</p> <p>2012『企画展示 楽器は語る —紀州藩主徳川治宝と君子の楽—』(解説執筆)(共著)国立歴史民俗博物館</p> <p>2012「有関羽塚啓明的業績之考察」(長嶺亮子訳)(単著) 戴嘉枋・李紀祥・蔡秉衡主編『中国音楽史学論集』</p> <p>2013「日本で作られた律管」(単著)『沖縄芸術の科学 沖縄県立芸術大学附属研究所紀要』第25号</p> <p>2014「『管絃音義』における「返音」」(単著)『ムーサ 沖縄県立芸術大学音楽学研究誌』第15号</p> <p>2014 書評「山寺美紀子著『国宝『碓石調幽蘭第五』の研究』」(単著)『音楽学』第59巻第2号</p> <p>2015「現存する中国の律管」(単著)『ムーサ 沖縄県立芸術大学音楽学研究誌』第16号</p> <p>2016「『楽書要録』の新たな伝本—京都大学文学研究科図書館所蔵『弁音声』について—」(単著)『東洋音楽研究』第81号</p> <p>2018 書評「榎木亨著『日本近世期における楽律研究—「律呂新書」を中心として』」(単著)『音楽学』第64巻第1号</p> <p>2019 書籍紹介「日本音楽の教育と研究をつなぐ会編著、徳丸吉彦監修『唱歌で学ぶ日本音楽』」(単著)『楽劇学』第26号</p> <p>2019 高瀬澄子・前島美保「十二律“年次”的現蔵地点」(陳佑而訳)(共著) 趙維平主編『第十二届中日音楽比較学術検討会論文集』</p> <p>2020「現存する日本の律管の寸法」(単著)『ムーサ 沖縄県立芸術大学音楽学研究誌』第21号</p>
<p>西洋音楽史講義A</p> <p>西洋音楽史講義B</p> <p>演習Ⅰ</p> <p>演習Ⅱ</p> <p>原典講読</p> <p>課題演習</p>	<p>倉橋玲子准教授</p>	<p>2017 西洋音楽史における時代様式と用語理解(1)—演奏による生きた音楽史理解へ向けて— 教職課程年報vol.2</p>
<p>楽劇理論A</p> <p>楽劇理論B</p> <p>演習Ⅰ</p> <p>演習Ⅱ</p> <p>原典講読</p> <p>民族舞踊学研究</p> <p>課題演習</p>	<p>呉屋淳子准教授</p>	<p>(著書)</p> <p>1.『震災後の地域文化と被災者の民俗誌』平成30年1月 新泉社</p> <p>2.『学校芸能の民族誌——創造される八重山芸能』平成29年2月 森話社</p> <p>3.『세계 연극교육의 현황과 전망』(世界演劇教育の現況と展望) 平成26年9月 民俗院</p> <p>4.『沖縄芸能のダイナミズム』(共著)令和2年、七月社</p> <p>5.「伝統と文化」の教授を巡る教育制度と学校の関係性——沖縄県立八重山高等学校の教育課程の事例から 平成26年2月『日本研究』(韓国・中央大学日本研究所)第36輯</p> <p>6.学校のなかの八重山芸能——人の移動と八重山芸能の成立過程に注目して 平成27年12月『国立歴史民俗博物館研究報告』第199</p> <p>7.『地域芸能と歩む』(共著)令和4年、沖縄県立芸術大学</p>
<p>演習Ⅰ</p> <p>演習Ⅱ</p> <p>原典講読</p> <p>課題演習</p> <p>西洋音楽史研究</p>	<p>向井大策准教授</p>	<p>(学術論文等)</p> <p>1.「こだまする記憶——ベンジャミン・ブリテン《戦争レクイエム》における追悼の詩学」平成25年11月『エオリアン論集——上野学園大学音楽文化研究センター』第1号</p> <p>2.「ベンジャミン・ブリテンの《ヴェニスに死す》における声とこだま」平成27年3月『上野学園創立110年記念論文集』</p> <p>(その他)</p> <p>1.〈歌曲の森〉第13篇 イアン・ボストリッジ(トッパンホール)プログラムノート 平成26年4月『歌曲の森』第13篇Ⅰ</p> <p>2.新日本フィルハーモニー交響楽団第537回定期演奏会(指揮:ハルムート・ヘンシェン)プログラムノート 平成27年3月『新日本フィルハーモニー交響楽団2015年3月演奏会プログラム』</p> <p>3. NHK音楽祭2016 バリ管弦楽団(指揮:ダニエル・ハーディング)曲目解説 平成28年11月『NHK音楽祭2016 プログラム』</p> <p>4.〈歌曲の森 ~詩と音楽 Gedichte und Music~〉第24篇 イアン・ボストリッジ プログラムノート(2019年1月19日、)</p> <p>5.「ブリテンが再創造するシェイクスピアの夜と夢——『夏の夜の夢』の幻想的な世界」、『ジ・アトレ』4月20日発行号</p> <p>6.「「中庸な道」を歩む——現代音楽とベンジャミン・ブリテンのオペラ」、ベンジャミン・ブリテン《夏の夜の夢》公演パンフレット(2020年10月4日~12日、新国立劇場)</p> <p>7.「ジェンダー論と音楽——差別と差異への眼差し」、美学会編『美学の事典』丸善出版(2020年12月)</p> <p>8.「ミュゼザ川崎シンフォニーホール&amp;東京交響楽団 名曲全集」曲目解説、ミュゼザ川崎シンフォニーホール、2021年9月18</p>
<p>演習Ⅰ</p>	<p>遠藤美奈准教授</p>	<p>(著書)</p> <p>2015「ウシデーク」『沖縄市史』第3巻民俗編</p> <p>(学術論文等)</p>

<p>演習Ⅱ</p> <p>原典講読</p> <p>課題演習</p>		<p>2019「戦前の沖縄における「エイサー」と「盆踊り」の諸相」『沖縄芸術の科学』第31号 (その他) 2021「地域の唄を歌い継ぐ人たち-故郷の芸能を支える人たちに注目して」沖縄県文化協会編『地域の伝統文化 継承の現状と課題』 (著書) 2020「ふるさとへの希求 ハワイ沖縄系移民と沖縄」久万田晋・三島わかかな編『沖縄芸能のダイナミズム』七月社 (学術論文) 2022「琉球古典箏曲「歌物」の類歌関連歌謡の旋律比較」琉球古典箏曲記録保存調査会編『記録作成等の措置を講ずべき無形文化財 古典箏曲調査報告書』 2022「古箏に関する追補調査」『琉球古典箏曲記録保存調査会編『記録作成等の措置を講ずべき無形文化財 古典箏曲調査報告書』</p>
(研究所)		
<p>演習Ⅰ</p> <p>演習Ⅱ</p> <p>原典講読</p> <p>民俗芸能論研究</p> <p>課題演習</p>	<p>久万田晋教授</p>	<p>(学術論文等)</p> <p>1.「近現代沖縄におけるポピュラー音楽の展開」 『歴博』No.175(特集 沖縄 自然・開発・イメージ)、国立歴史民俗博物館、平成24年、pp.12-15。 2.「第10章 芸能・娯楽—本市における芸能と娯楽の概要と特徴—」 『沖縄市史 第三巻民俗編 冊子編』沖縄市、平成27年3月、pp.140-164。 3.「第10章第2節 民俗芸能・民謡」(一部遠藤美奈と共著) 『沖縄市史第三巻 民俗編-CD編-』沖縄市、平成27年3月、pp.1031-1039。 4.「第10章第4節 芸能娯楽の戦後の展開」 『沖縄市史第三巻 民俗編-CD編-』沖縄市、平成27年3月、pp.1059-1067。 5.「戦後沖縄、二つの芸能コンクール」 『神奈川大学評論』第82号、平成27年11月、pp.136-139。 6.「近現代における沖縄の民俗音楽・芸能の変遷過程-エイサーを事例として-」 『現代グローバル社会における自律的島嶼社会モデルの構築と実践-島嶼地域研究・教育の拠点形成-』 (文部科学省特別経費概算要求プロジェクト平成27年度成果報告書)琉球大学国際沖縄研究所、平成28年3月、pp.207-224。 7.「南城市の民俗芸能概観」 『沖縄県立芸術大学と南城市との包括連携事業 南城市地域民俗芸能調査委託業務報告書』 沖縄県南城市文化センター・シュガーホール 南城市文化のまちづくり事業実行委員会、平成29年3月、pp.1-6。 8.「第六節 近現代エイサーの展開」 『沖縄県史 各論編 第九巻 民俗』沖縄県教育委員会、令和2年3月24日pp.691-696。 9.「沖縄臼太鼓旋律のリズム分析試論-奄美大島八月踊り旋律と比較して-」 『沖縄芸術の科学』第32号、令和2年3月31日、pp.33-49。 10.「沖縄本島におけるエイサー伝播の現代的状況-沖縄本島北部・中部・南部の事例から-」 『沖縄芸能のダイナミズム 創造・表象・越境』(久万田晋・三島わかかな編)七月社、令和2年4月15日、pp.252-288。 11.「書評:塚田健一著『エイサー物語 移動する人、伝播する芸能』」 『東洋音楽研究』第85号、一般社団法人東洋音楽学会、令和2年8月、pp.140-143。 12.「踊るエイサーから魅せるエイサーへ」 『季刊民族学』第46巻第3号(通巻181号)、公益財団法人千里文化財団、令和4年7月、pp.42-51。</p>

科目名	担当教員	科目に対応する主な業績
教職論	大城進	『教師と学生が知っておくべき教育動向』（共著）
		「チーム学校構想と地域連携における教員の役割についての一考察－屋我地ひるぎ学園における地域学習の開発を例として－」
教育原理	芳澤拓也	『危機のなかの若者たち』（共著）
		『沖縄で教師をめざす人のために』（共著）
		「教授学と汎知学－コメニウスの思想とその歴史的背景－」
教育心理学	城間祥子	2013『新教職教育講座 第7巻 発達と学習』協同出版（共著）
		2018『スタンダード学習心理学』サイエンス社（共著）
		2021「学びのための連載：統計法／研究法 エスノグラフィー」『季刊 公認心理師』2(3)、協同出版（単著）
教育方法	城間祥子	2013『新教職教育講座 第7巻 発達と学習』協同出版（共著）
		2018『スタンダード学習心理学』サイエンス社（共著）
		2019「ワークショップを实践できる教師の育成を目的とした授業プログラムの開発」『上越教育大学研究紀要』38(2)（単著）
教育行政	照屋信治	藤澤健一編『沖縄の教師像－数量・組織・個体の近代史』
		「「沖縄方言論争」と『沖縄教育』誌上の「標準語」教育論－「混用」という可能性－」
		「沖縄教育における「文明化」と「大和化」－太田朝敷の「新沖縄」構想を手がかりとして－」
学校カウンセリング	松田盛雄	「処遇共助を活用した性同一性障害を有する受刑者への継続面接の試み」
		「「被害者の視点を取り入れた教育」のプログラム検証と心理援助について」
		「「被害者の視点を取り入れた教育」のプログラム検証（その2）」
教育課程	城間祥子	2013『新教職教育講座 第7巻 発達と学習』協同出版（共著）
		2018『スタンダード学習心理学』サイエンス社（共著）
		2015「地域での活動と省察を中心とした「体験」型プログラム」『教員養成教育における教育改善の取組に関する調査研究－アクティブ・ラーニングに着目して－』国立教育政策研究所（共著）
生徒・進路指導論	松田盛雄	「一般相談を活用した知的障害児施設に対する継続的処遇支援について」
		「性犯罪の形態について－メディアリテラシーとの関係において」
生徒・進路指導論	芳澤拓也	『危機のなかの若者たち』（共著）
		『沖縄で教師をめざす人のために』（共著）
		「戦後学校教育の歩みと「教育問題」－競争の下での生徒・進路指導－」
特別支援教育	比嘉浩	「県立沖縄高等特別支援学校における社会的、職業的自立をめざした学校経営－寄宿舎生活に係る生徒・保護者向けアンケート調査の分析を通して－」
美術科教育法Ⅰ	瑞慶山昇	「東京美術学校で学んだ平田善吉」
		「宮古島の絵画同人「二季会」の画家Ⅰ－下地明増と本村恵清－」
		「古島の絵画同人「二季会」誕生と画家、平野長伴」
		「新しい学習指導要領と美術科、芸術科（美術）教育」

美術科教育法Ⅱ	瑞慶山昇	「東京美術学校で学んだ平田善吉」
		「宮古島の絵画同人「二季会」の画家Ⅰー下地明増と本村恵清一」
		「古島の絵画同人「二季会」誕生と画家、平野長伴」
		「新しい学習指導要領と美術科、芸術科（美術）教育」
美術科教育法Ⅲ	瑞慶山昇	「東京美術学校で学んだ平田善吉」
		「宮古島の絵画同人「二季会」の画家Ⅰー下地明増と本村恵清一」
		「古島の絵画同人「二季会」誕生と画家、平野長伴」
		「新しい学習指導要領と美術科、芸術科（美術）教育」
工芸科教育法	田里みのり	
音楽科教育法Ⅰ	西村幸高	「ピアノの音色を豊かにするメソッドに関する研究Ⅱー自己意識の変化に着目してー」
		「音楽教育におけるリベラル・アーツの可能性ー幼児教育養成課程での実践を通してー」
		「幼児教育者養成課程におけるリトミックの可能性ー幼小連携に焦点を当てた実践からー」
		「教養教育としての音楽の役割についてー公開講座に焦点を当ててー」
音楽科教育法Ⅱ	高江洲博子	「『リコーダー』とともに 続けること・積み重ねること」
		「リコーダー×創作 リコーダーで音楽づくりを楽しもう」
音楽科教育法Ⅲ	高江洲博子	「『リコーダー』とともに 続けること・積み重ねること」
		「リコーダー×創作 リコーダーで音楽づくりを楽しもう」
道徳教育の理論及び指導法	芳澤拓也	「『特別の教科 道徳』の構想ー目標、学習の過程、評価ー」
		「道徳教育の方法論をめぐる理論的展開ーコールバーグまでとコールバーグ以後ー」
特別活動	芳澤拓也	『沖縄で教師をめざす人のために』（共著）
		「学舎融合をめぐる三つの実践モデル」
		「新しい学習指導要領における特別活動の論理」
総合的な学習の時間の指導法	芳澤拓也	「新学習指導要領における『総合的な学習の時間』の構想と人格の発達」
		「道徳教育の方法論をめぐる理論的展開ーコールバーグまでとコールバーグ以後ー」
		「新しい学習指導要領における特別活動の論理」
総合的な学習の時間の指導法	城間祥子	2013『新教職教育講座 第7巻 発達と学習』協同出版（共著）
		2018『スタンダード学習心理学』サイエンス社（共著）
教育実習（長期）（短期）	芳澤拓也	『危機のなかの若者たち』（共著）
		『沖縄で教師をめざす人のために』（共著）
		「インストラクショナル・デザインという発想ー効果的な授業内容の構想・設計・実施・評価、およびその方法の構築の為にー」
教育実習（長期）（短期）	城間祥子	2013『新教職教育講座 第7巻 発達と学習』協同出版（共著）
		2018『スタンダード学習心理学』サイエンス社（共著）

		2019「ワークショップを实践できる教師の育成を目的とした授業プログラムの開発」『上越教育大学研究紀要』38(2) (単著)
教職実践演習 (中・高)	芳澤拓也	『危機のなかの若者たち』 (共著)
		『沖縄で教師をめざす人のために』 (共著)
		「インストラクショナル・デザインという発想—効果的な授業内容の構想・設計・実施・評価、およびその方法の構築の為に—」
教職実践演習 (中・高)	城間祥子	2013『新教職教育講座 第7巻 発達と学習』協同出版 (共著)
		2018『スタンダード学習心理学』サイエンス社 (共著)
		2019「ワークショップを实践できる教師の育成を目的とした授業プログラムの開発」『上越教育大学研究紀要』38(2) (単著)